



Title	形象 2号 編集後記
Author(s)	三木, 順子
Citation	形象. 2017, 2, p. 115-115
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/75802">https://hdl.handle.net/11094/75802</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

第二号の編集が終わり、いよいよ印刷の時期を迎えることとなりました。予定どおりに進まず苦しい時期もありましたが、研究会メンバー全員で力をあわせ、結果として、論文と書評で構成された昨年の創刊号よりもカテゴリーを増やし、インタビュー報告と展覧会・国際コロック評を新たに盛り込んだ、発展的な号を編むことができました。論文においてもまた、古くは中世美学から、新しくは二〇世紀の具体詩の作品研究まで、扱う時代とジャンルの幅が前号よりもさらに広がりました。

今号も、印刷は修美社さんにお世話になります。すでにたくさんのお手紙をきいていただき、山下昌毅さんと永田和浩さんには年度末の繁忙期にご迷惑をおかけしておりますが、引き続きよろしくお願いいたします。より読みやすい冊子を目指し、今号は、活字組を前号から少々変更しました。表紙は、前号に引き続き、デザイナーの西村祐一さんがお引き受けくださいました。ありがとうございました。

なお、二〇一六年は、三月に第一回形象論研究会を開催しました。ゲスト・スピーカーとして、ハイデガーによるカントの構想力の解釈について話題を提供してくださった高梨友宏さん、同じくゲストとして、中世のスペキエス論をご紹介くださいました横道仁志さん、さらに、改めてお札申し上げます。ちょうど本号が刊行されるころ、大阪大学にて、第一回研究会を開催する運びです。詳しくは、次号にてご報告いたします。

本号を手にとつてくださる読者の方々から、忌憚のないご意見やご感想をお聞かせいただけるならば幸甚です。形象論研究会の綱領は、毎号、巻頭に掲載します。形象論研究会に興味を持たれた方は、どうぞご遠慮なくメンバーまでお問い合わせください。

〔三木順子〕